

技術情報

長崎県病害虫防除所長

平成25年度病害虫発生予察技術情報第2号

ヒメトビウンカの生息量及び イネ縞葉枯ウイルスの保毒状況について

平成25年5月に行った調査の結果、下記のとおりヒメトビウンカ（第1世代）の生息量は少なく、イネ縞葉枯ウイルスの保毒率はやや低い状況でしたが、6月上旬の調査における早期水稲でのヒメトビウンカの発生量は平年並となっており、今後のヒメトビウンカの発生は並、縞葉枯病の発生はやや少であると予想されます。

記

1. ヒメトビウンカ（第1世代）の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況

(1) 平成25年5月中下旬の小麦圃場及びイネ科雑草地（24地点、1地点あたり概ね5圃場）においてヒメトビウンカの生息量調査を行った結果、捕虫網による20回すくいとり当たり虫数は2.7頭（平年11.9頭）と平年より少なく（図、表）若齢・中齢主体であった。

(2) 上記調査時に採集したヒメトビウンカについてイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率調査（ラテックス凝集反応法）を行った。その結果、保毒虫率は1.0%（平年2.0%）と平年よりやや低かった（図、表）。

2. 早期水稲における発生状況

(1) 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭（平年0.1頭）、発生圃場率は43.9%（平年24.5%）であった。縞葉枯病の発生は認めなかった（平年発生圃場率0.0%、発病株率0.0%）。

(2) 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.2頭（平年0.1頭）であった。縞葉枯病の発生は認めなかった（平年発生を認めない）。

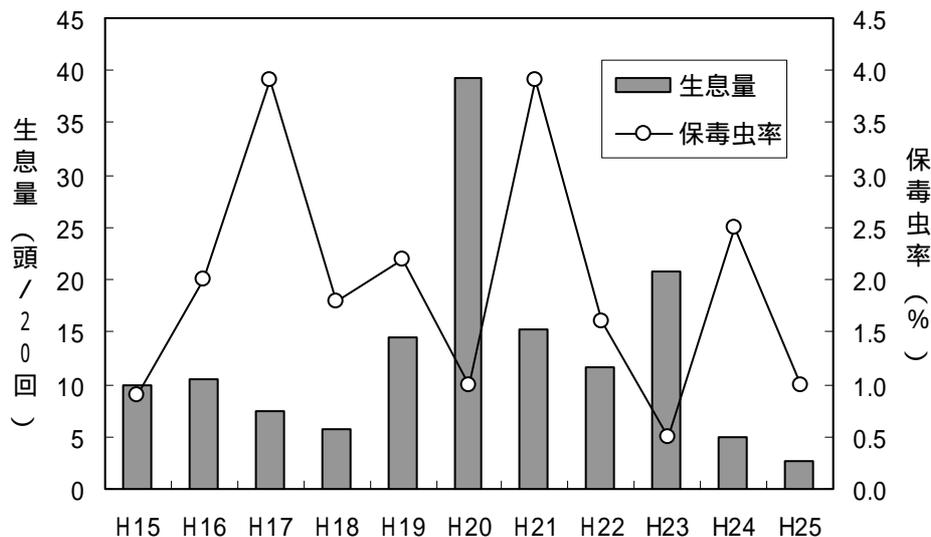


図 小麦圃場及びイネ科雑草地におけるヒメトビウンカ(第1世代)の生息量及びイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

表 各地点におけるヒメトビウンカ（第1世代）の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率

採 集 地 点	検定虫数	保毒虫率 (%)	生 息 量
長崎市琴海	47	0	4.4
長崎市外海神の浦	6	-	0.7
西海市大瀬戸多以良	-	-	0
諫早市小野	150	0.7	4.3
諫早市森山	150	1.3	8.8
諫早市多良見町元釜	36	0	2.8
大村市鈴田	149	0	25.1
東彼杵町三根	70	0	35.5
雲仙市吾妻町	25	-	0.9
雲仙市国見町神代	131	2.3	5.4
佐世保市長畑	50	0	0.4
佐世保市針尾	100	1.0	1.2
松浦市志佐	4	-	0.4
平戸市紐差	2	-	0.1
五島市富江	78	0	10.1
五島市崎山	4	-	0.6
五島市三井楽	35	0	4.0
五島市大津	31	0	2.1
壱岐市芦辺町	1	-	0.2
壱岐市郷ノ浦町	150	2.7	1.1
壱岐市勝本町	100	1.0	1.4
対馬市厳原町豆酸	46	0	1.5
対馬市厳原町瀬	-	-	0
対馬市豊玉町曾	-	-	0
県全体	1365	1.0	2.7
平年値	-	2.0	11.9

* 保毒虫率については、30頭以上捕獲した調査地点のみ算出

* 生息量については、20回すくいとり当たりの頭数

3. 防除対策について

- (1) 今後、移植を行う圃場ではウンカ類に効果のある箱施薬剤を必ず施用する。
- (2) 圃場でのヒメトビウンカの発生状況に注意し、発生が多い場合には防除を行う。
- (3) 縞葉枯病の発病株を認めた場合は早急に抜き取る。
- (4) 窒素過多は縞葉枯病の発生を助長するので適正な肥培管理に努める。

6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027